

災害の 最前線で 消防団は

昨年7月5日の夜から同6日の午前にかけて、活発な梅雨前線の影響で県南部に激しい雨が降りました。熊本地方気象台の牛深特別地域気象観測所(牛深町)では、6日の午前5時40分までの1時間に79.5mm(7月の観測史上最大)、同7時10分までの3時間に160.5mm(1976年の統計開始以降最大)という記録的な大雨を観測。この雨の影響により、市内でも牛深地域を中心に各地で家屋の浸水や土砂崩れが発生しました。

このような災害の最前線で、消防団はどのような活動を行ったのでしょうか。

そこで、地区内が冠水、家屋の床下浸水、土砂崩れなどの被害にあった久玉町村田区の津端郁雄区長と、同かじや区の松下二六一区長、そして同町を管轄する牛深方面隊第4分団の濱崎安治分団長に、当時の状況などについて話を聞きました。

「観測史上に残る大雨を記録しました。」

松下区長 それはもう、すごい雨でしたよ。確か朝の5時からいだったと思います。区で自主防災組織をつくっていただきますので、私は班長さんたちに連絡をして状況把握を行いました。

また、地区内には海よりも低い冠水の常習地帯があるんです。心配で確認をしにいったら、すでに湖のような状態でした。

津端区長 雨の勢い、音がいつもとは違っていました。雨が家の屋根に当たる音で、テレビの音声が聞こえないんです。それぐらいの状況でした。
濱崎分団長 ほんとうに異常な雨。消防団としては、5日の夜に大雨・洪水警報、6日未明には土砂災害警戒情報が発表されましたので、警戒態勢はすでにとっていました。

そんな中、午前5時ごろ、かじや区内を通る県道26号沿いの山が土砂崩れになっていくという連絡があつて、すぐに現場に急行したんです。か

さを持参したんですが、雨がひどすぎてかさはまったく役に立たなかったですね。

「土砂崩れにより県道が寸断されていたんですね。」

濱崎分団長 はい。連絡を受けて私が見に行ったときには、流れ込んだ土砂が完全に道路をふさいでいました。すぐに団員に指示して人が近寄らないように交通規制を行い、土砂にたまった水をはかせるために、木々の伐採などの対応を行いました。

その後、県がブルドーザーなどの重機を投入しましたので、土砂を除去後、無事に通れるようになりました。
松下区長 私たちが生活する



村田区
つばた いくお
津端 郁雄 区長

うえでなくてはならない道路であり、一刻も早い復旧を願う中で、消防団の皆さんにはいち早く対応していただき、ほんとうに助かりました。
濱崎分団長 また、町内では各地で土砂崩れが発生しましたので、土砂の除去のほか、崩れた山肌をブルーシートで覆うなどの対応も行いました。目の前で起きてくる災害を何とかしなければという思いで、団員全員が必死になつて対応にあたりました。



▲土砂の除去作業を行う団員

「幸いにして、今回の大雨によるけが人や犠牲者は出ませんでした。」

津端区長 そうですね。大雨の影響で地区内でも道路の冠水や家屋の床下浸水、土砂崩れなどの被害がありました。が、人命にかかわる事態にはなりません。ほんとうに幸いだったと思います。

「地域にとって、消防団とはどういう存在ですか。」

松下区長 やはり頼りですよ。われわれ区長は、住民の安全を第一に考えなければなりません。そういう中で、消防団はいちばんのよりどころです。

また、区主催の奉仕作業にも参加していただいていますし、ありがたいと思っています。

津端区長 住民の高齢化が進んでいますので、そういう意味でもなくてはならない存在だと思っています。

この前の台風のとき、大潮と重なったときですね。そのときも消防団の皆さんにバト

ロールをしていただきました。感謝しています。

濱崎分団長 災害はいつ起きるか分かりませんが、いつか必ず起きるものです。これからは私たちが「地域の安全を守る」という自負をもつて取り組んでいきたいと思っています。

一方で、団員たちは、日常はそれぞれ仕事をもちながら、消防団活動に取り組んでいます。各事業所におかれましては、消防団活動へのご理解とご協力を、よろしくお願ひします。

また、若い人々には、消防団活動に興味をもつただけ、ぜひ入団していただければと思います。



かじや区
まつした ふじいち
松下 二六一 区長



天草市消防団
牛深方面隊第4分団
はまさき やすはる
濱崎 安治 分団長

土砂崩れにより道路が寸断された県道26号